

研究課題（テーマ）		多彩な人々と富山の未来共創を考えることでキャリアビジョンを描く「場」の試行	
研究者	所属学科等	職	氏 名
代表者	情報システム工学科	講師	大倉裕貴
研究結果の概要			
人口減少が進み、社会や地域の構造が大きく変化する中、これからの時代を生きる学生にとって、自身のキャリアや生き方を主体的に考える力がますます重要になっています。こうした背景を踏まえ、本事業では、大学生を主な対象としたキャリア形成支援の一環として、対話と内省を通じて自分自身の生き方や価値観を見つめ直す機会の創出を目指しました。 そのための取り組みとして、県内外の多様なステークホルダーと連携しながら、富山での暮らしや将来像を学生自身が描けるよう支援する「北欧流ライフデザインから学ぶ、とやまホンネ道場」を実施いたしました。本ワークショップは、学生が自分のキャリアやライフデザインを考える「場」の試行として位置づけられ、「対話」を重視した共創デザインのアプローチについて、座学とともに、実践的に参加者同士で複数のワークに取り組んでいきました。また、違う考え、価値観から自分たちを見つめ直す、をキーワードに、北欧、特にデンマークでのキャリアやライフデザインの考え方についても学び、異なる考え方に対する気づき等を複数人で対話することで、お互いのキャリアビジョンの解像度を高めていきました。 当日は学生 12 名、社会人 2 名が参加し、多様な価値観や生き方に触れるなかで、学生たちは「自分にとっての理想の生き方」や「働くことの意味」について深く考える時間を持ちました。参加後のアンケートでは、「他の参加者との対話を通して、新たな気づきを得た」「受講前よりも、自分のキャリアやライフスタイルについて具体的に考えられるようになった」といった声が寄せられました。また、「もっと北欧流のライフデザインについて学びたい」「初めて“対話”の重要性に気づいた」といった自由記述も多く見受けられ、参加者のキャリア形成に対する意識の変化が確認されました。			
今後の展開			
今回の取り組みからは、将来のキャリアビジョンについて深く内省できていなかったと自己分析する学生が一定数いたことが明らかになり、キャリア形成支援の観点から、今後このような内省を促す機会を増やしていく必要があると考えております。また、異なる生活背景を持つ人々が集い、対話を軸に多様な可能性に気づき議論する「場」は非常に重要であるため、今後は学生・地域住民・多様な業種の社会人など、さらに多様な背景を持つ方々が参加してキャリアを考える企画の実現の可能性について検討していきたいと思っております。			